

平成27年（2015年）は、普照院が兵庫の地に建立されてから650年になります



『人間は死んだらどうなるのでしょうか。』  
今回は、皆さんがこの当たり前のようであまり深く考えたことのないかもしれないことについて書かせていただきます。

たまに「死んだら、人は無になる。」とおっしゃる方がおられます。はたしてそういった方は、何を根拠にそうおっしゃるのでしょう。

人が死んだ後に「有（ゆう）」（認識＝魂が有

る）という状況が証明できないから「無」（認識が無くなる）であると断言するのならば、その「無」になることも証明できなければなりません。なぜなら「有」も「無」も、どちらも他者から見た「状態」であるからです。

確かに約 2500 年前に現在のインドでご活躍された仏教の開祖であるお釈迦様は、死後のことをたずねられた際、「分からない。」と答えたそうです。それは「無い」と答えたならば、上記のような立証が必要になってくるからだとは私は推測します。そのかわりお釈迦様は、仏教での悟りの世界を「空（くう）」と説かれました。欲の尽きない私たちは、お釈迦様のように生きている間にこの悟りの状態である「空」を理解することはできません。しかし宗教的には、死後誰しもがこの「空」の状態を理解できるようになるのです。

ちなみに現在の仏教での死後の世界である『極楽浄土』という世界観は、お釈迦様がお亡くなりになった後に説かれた教えです。しかしそれはお釈迦様の教えが宗教として存続する過程ではどうしても必要になってくる考えで、「死後の世界」というものはどんな宗教でもそれが成立する上で必要なものです。

要は『人間は死んだらどうなるのか』は、誰にも分からないのです。そしてこればかりは永遠に立証出来ないでしょうし、立証する必要もないことです。それは死後の世界というものは、本当は生きている私たちにこそ必要なものであるからです。

「え、極楽浄土は生きている私たちにこそ必要なものなの？」と思われましたか。

人はいつか必ず死を迎える時がやってきますが、その瞬間までは当たり前ですが生き続けなければなりません。そしてその時まで、常に誰かに支えられながら私たちは生きているのです。この世で一人で生きていける人間は絶対にいません。人は常に他者の助けを借りて生きているのです。だからこそ自分自身が死んでからでも、お世話になった方々に「ありがとう」と感謝の言葉をお送りしたいし、死んだ先からでも何かして差し上げたいと、日々感謝して生活しておられる方なら、生きている時に思うと思います。

また残された方々の心の中には、先に逝かれた方々が生き続けておられませんか？

それもある意味、死後を生きているということですから、死後の世界は死者のためと言うより、私たち生きている人間にとって必要なものであるし、それを信じること

**が大切なのだ**と私は思っています。

ちょっと小難しいことを書いてしまいましたが、僧侶という立場の人間は、本来こういったことを常日頃考え、そのために修行をしています。ただこういうことを考えるということとはとても非生産的なことであり、日常生活を送っていく糧（かて）を得ることができません。だから生産的な日常を送っている在家（ざいけ：出家をしていない方々）の皆さんから貴重なお布施をいただいて暮らさせてもらい、そのかわり僧侶は仏の教えについて分かった範囲内のことを皆さんにお伝えする（法を説く）のが、僧侶の本来の仕事なのです。そういう訳で、今回は死後の世界＝極楽浄土について、私なりに理解していることを書かせていただきました。

さて、戦後70年という年の秋のお彼岸がやってきます。先に逝かれた方々のご苦勞を想いながら、その皆様や各家のご先祖様が暮らす『極楽浄土』という世界について、子供たちや孫たちと共有できる時間を、皆様もこのお彼岸という時期に是非もっていただければと思います。



今年のお盆も終わり、一息ついていたある日の夕方、突然お寺の電話が鳴りました。そのディスプレイを見ると東京方面からです。東京のお檀家さんからかな？と思いながら出て

みると、それはテレビ朝日放送さんからで、私に『ぶっちゃんけ寺』という番組へ出演して欲しいというものでした。当寺院のホームページなどに書いている記事を読み、お電話していただいたようです。突然のことでとてもビックリしましたが、まあ私がテレビに出て当寺院が有名になるのであれば、と思い当初は快諾させていただきました。

が、しかし時間を置いてよくよく考えてみますと、うまくいけばそれこそ当寺院にとってプラスになりますが、逆に何か問題になることを「ぶっちゃんけて」しまうと当寺院にとってのマイナスイメージは計り知れません。テレビに出演するということは有名になるというメリットがあるばかりではなく、その他様々な問題もあることに気づかされ、翌日に出演依頼を辞退させていただきました。やっぱり私には、地道にコツコツと、が一番です。

〔編集後記〕 昨今は男女のお付き合いもオープンな時代になってきました。住職の娘も高校1年と中学2年になり、そろそろ色々心配な年頃になってきました。そんな時ふと思ったのですが、女性ならお付き合いする方を「彼氏」、男性なら「彼女」と言いますが、この「彼」という漢字は人を指すだけでなく『遠称を指示する』言葉としても使用され、『彼岸』も正に「はるか彼方（かなた）の岸」という意味です。もしかすると『彼氏・彼女』も、「はるか彼方の氏（男性）、はるか彼方の女性」という意味も含まれているのかもしれない。う～ん、奥深いですね。 合掌

発行：[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話・ファックス 078-671-1787 ホームページ <http://fusyoin.com/>

● facebook ページ『普照院』、随時投稿中です。 



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。

